

最後のチャイム

— 今 卒業のとき —

チャイムが鳴った
最後の授業の終わりを告げて
そうしていつもの あいさつしたけれど
誰もがみんな一瞬だまって顔見合わせた
ぼくたちの思い出が遠い空へと返る

はじめてとびばこがとべた日のこと
雪の日 真っ白にそまった校庭
ささいなことでけんかして
体育館のかげで泣いたこと

今 卒業のとき
胸にこみあげるものがあるけれど
まっすぐ顔をあげて
今 卒業のとき
さよならの向こうには
何かが きっと待っている

チャイムは今も
こころをゆらして鳴りつづけてる
きょうの日をいつまでも
とどめおきたいけれど
あだ名で呼び合って笑いすぎた日
花壇のひまわりは青空高くに
つくえのすみのイニシャルは
消さずにおいていてもいいだらか

今 卒業のとき
道はすこしずつわかれゆくけれど
勇気と希望もって
さみしさをのりこえて
明日へつよくふみだそう

今 卒業のとき
さよならの向こうには
何かが きっと待っている

【作詞 山本恵三子 作曲 若松敏】

点に過ぎません。中学、高校の6年間には、さらにその倍のチャイムと、数え切れないほどたくさんの夢が、6年生の皆さんを待っています。この先も、正則小学校はずっとこの場所でチャイムを鳴らして、正則の卒業生を応援しています。

正則小の朝は「魔女の宅急便」の予鈴が始まります。この曲で、運動場で遊んでいた正則の子は、大急ぎで教室に入ります。始業を告げるのは、おなじみの「キーンコーンカーンコーン」です。「ウェストミンスターの鐘」という曲で、イギリスのビッグベンが正午を告げる鐘と同じです。

給食の準備中は、放送委員が「おもちゃの兵隊の観兵式」「ガボット」などのクラシックの曲を流しています。歯磨きの曲は「笑顔の秘密」（誰もこの曲名を知らなかった！）。掃除と下校の曲は、リチャードクレイダーマンの軽やかなピアノ曲。もう10年以上変わらず、同じ曲が流れているとのこと。ちなみに「教室へ入りましょう」「あと3分で掃除が始まります」などの歯切れのよいアナウンスをしているのは、今から10年前の6年生の放送委員。今ごろはきっと、話し上手で素敵な大人になっていることでしょうね。

ところで、6年生が「キーンコーン…」を聞くのは、1日5時間授業として始めと終わりで10回、授業日を年間200日とすると1年で2000回、6年間ではざっと12000回にもなります。途方もない数です。

小学校で初めて聞いたのは、始業式の朝。1年生の担任は「この音で勉強を始めます」と、1日の流れを教えてくれたことでしょう。それから6年の間、楽しかったことやうれしかったこと、悔しかったこともつらかったことも、チャイムで始まりチャイムで終わりました。

12000回目のチャイムは、19日(月)4時間目終了の合図です。でも、これは通過

